

平成20年6月26日

全国大学国語教育学会
平成20年度 学会通信 第1号

全国大学国語教育学会事務局

理事長 吉田裕久

梅雨の候、学会員の皆様にはご健勝のことと存じます。

先日開催されました第114回茨城大会は、大会事務局のご尽力と学会員皆様のご協力のお陰をもちまして、盛会のうちに終えることができましたこと、改めて感謝申し上げます。

新事務局も、やっと本格的に歩み始めました。前事務局同様、学会員の皆様のご協力・ご支援を得て、学会の発展に寄与して参りたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

◆茨城大会を終えて

理事の方々からお寄せいただいた茨城大会に参加しての感想をご紹介します。

●中洩正堯（常任理事）

第1日目のパネル・ディスカッションで「教科内容」の問題、第2日目の課題研究発表で「国語学力」の課題を問うたことがうまく呼応し、学会として何を究明すべきかが、学会員の一人ひとりに改めて具体的に提起された。

このことは、前後の自由研究発表の内容についても、その研究が取り扱っている「教科内容」「国語学力」は何かを考えさせることになった。

したがって、聴衆の一人である私も、「伝統的な言語文化」に関することわざや慣用句、故事成語のことなどを取り上げて、「教科内容」「国語学力」との整合性を考えてみた。

たとえば「糠に釘」ということわざ一つが、扱いようによっては、「教材内容」にも「教科内容」にも「教育内容」にもなりうる。一方で、「糠」や「釘」が遠くなった生活や社会状況においては、このことわざは「国語学力」の調査の対象にはなりにくい。「糠に釘」はもはや“古典”になるのかなどと。

「糠に釘」にかぎらず、ことわざが機能していた生活や社会が急速に後退しつつある。ことわざの中には後退して幸いというものもあるが、絶滅危惧種もある。

こんなことを考え、国語学力調査に“先導性”があるとすれば、これから先どういう生活や社会を実現しようとするかの想定が、前提として必要な気がしてきた。その議論の中で、欧米型のレトリックやアジア的な考え方などとの差異性が見定められるのではあるまいか。

●菅原稔（岡山大学）

恒例の春の学会、第114回全国大学国語教育学会茨城大会が成功裏に終了した。自由研究発

表だけで第1日と第2日とを合わせて11の分科会，合計61の真摯な，そして個性あふれる発表と討論が展開された。それに加えて第1日の午後にはパネルディスカッション，第2日の午前には課題研究と，あふれる熱気に満たされた，充実した2日間であった。

ずっと以前，夏の学会が小金井の東京学芸大学附属小学校の図書室で，そして四谷の私学会館で開催されていた頃は，わずか5，6件の研究発表，20～30人の参会者による会であった。当時と隔世の感を抱くのは，私が馬齢を重ねたからであろうか。

現在の盛況を望月久貴先生，飛田多喜雄先生がご覧になれば，どのようにおっしゃるだろうか。初めて研究発表をした私に「ご苦労さま」と声をかけてくださった滑川道夫先生の温顔を忘れることができない。初期の学会を築いてくださって先達のご苦労を思いながら，何としても，この盛況を守り続けたいものである。

◆第114回茨城大会 総会議事録

(総合司会) 有沢俊太郎常任理事

議事の審議に先だって議長を選出が行われ，事務局から慣例に従って前回大会開催校の菅原稔氏(岡山大学)が推薦され，承認を得た。

1. 議事

<訂正>総会次第に記された「8. 役員の兼任について」は誤りとして議事から削除された。

1. 事務局移転について

吉田裕久氏(広島大学)から，理事長就任のあいさつ，新事務局のメンバー紹介が行われた。また，吉田理事長から，新役員のうち監査について，上谷順三郎氏(鹿児島大学)，笠井正信氏(東京学芸大学附属中高等学校)を選出したという報告があり，承認された。

2. 2007年度事業報告

3. 2007年度会計報告・監査(資料)

前事務局長の藤井知弘氏(岩手大学)から，2007年度事業報告および2007年度会計報告について，配付資料に基づいて説明があった。続いて，監査について，吉田理事長から今回の実施手順および前監査の井上一郎氏(文部科学省)，町田守弘氏(早稲田大学)の両委員欠席の事情(公務と重さなつたため)が説明され，町田氏からの文書での監査報告が朗読されるとともに，監査文書の書類の実物が提示された。両議事について，承認された。

4. 2008年度事業計画(資料)

5. 2008年度予算案(資料)

事務局長の山元隆春氏(広島大学)から，短いあいさつの後，配付資料に基づいて，2008年度事業計画と同予算案について併せて説明があった。人件費の上昇について，吉田理事長からHP管理料込み(一人が合わせて担当)という補足説明があった。両議事について，承認された。

6. 今後の学会開催予定

次回以降の学会開催校から，開催日程等(予定)について案内が行われ，承認された。

第115回福岡大会 2008.11.22-23日 福岡教育大学(山元悦子氏)

- 第116回秋田大会 2009.5.30-31日(予定) 秋田大学(阿部昇氏)
第117回愛媛大会 2009.10.24-25日(予定) 愛媛大学(三浦和尚氏・中西淳氏)
第118回東京大会 2010.5.29-30日(予定) 東京学芸大学(大熊徹氏)
第119回徳島大会(日程未定) 鳴門教育大学(村井万里子氏)

7. 『国語科教育』の編集状況について

編集委員長の上谷氏から、以下の3点について報告があり、承認された。

- ・審査結果について…投稿21編、1編が掲載、2編が修正後掲載予定。
- ・第64号の内容について…投稿論文の他、茨城大会のパネルディスカッション原稿、書評2点、アンケート結果等を掲載。
- ・副編集委員長の選出について…第65号、第66号の副編集委員長として、鶴田清司氏(都留文科大学)、大内善一氏(茨城大学)をそれぞれ選出。

8. その他

学会誌の保存と販売について、吉田理事長より案内があった(販売に関しては、本大会開催中、1冊500円で販売された)。

II. 報告

1. 各部門等報告

(1) 研究部門

塚田泰彦氏(筑波大学)から、下記の事項について説明があった。

- ・アンケート結果の分析と公表について
- ・学会課題研究の計画について
- ・公開講座の開催について

(2) 広報部門

松山雅子氏(大阪教育大学)より、下記の事項について説明があった。

- ・ホームページの充実について
- ・研究成果の公表について
- ・要望があれば広報部門へ

(3) テキスト委員会

世羅博昭氏(四国大学)より、下記出版物の編集状況について説明があった。

- ・『国語科教育実践・研究必携』
- ・『新たな時代を拓く 小学校国語科教育研究』
- ・『中学校・高等学校国語科教育研究』

(4) その他

大内善一氏より、今回の学会開催について、あいさつとスタッフの紹介が行われた後、議長の菅原氏から、旧事務局へのねぎらい、新事務局への期待が述べられ、総会が閉会された。

以上

◆第115回福岡大会のご案内(第1次)

福岡大会実行委員長・前田眞澄（福岡教育大学）

■第115回大会は、平成20年11月22日（土）、23日（日）に北九州国際会議場（北九州市小倉北区）にて行われます。

編集委員会、常任理事会は、前日の11月21日（金）リーガロイヤルホテルにて行います。

■学会参加については、事前申し込みとなります。

2次案内に、JTBによる参加申込書等を同封いたします（10月15日申し込み締め切り）。

■大会2日間の概要（予定）

会場：北九州国際会議場（2日間とも）

<第1日目 11月22日（土）>

午前 自由研究発表

昼 理事会

午後 総会

ラウンドテーブル（企画担当者募集）

懇親会 リーガロイヤルホテル（JR小倉駅徒歩3分）

<第2日目 11月23日（日）>

午前 課題研究発表 テーマ：国語学力調査の意義と問題（3）

—政策的・社会文化的視点から—

午後 自由研究発表

◆第115回 福岡大会の自由研究発表・ラウンドテーブル企画者の募集について

1 申し込み手順

(1) 自由研究発表

往復はがきに次の事項をご記入の上、お願いいたします。

- ・発表区分 自由研究発表
- ・発表題目（申し込み後の変更は不可）
- ・氏名（ふりがなを必ずつける）
- ・所属（職名、電話番号、メールアドレス）
- ・住所、電話番号、緊急時連絡先（携帯）

*返信はがきに、自分宛の郵便番号、住所、氏名を必ず記入して下さい。

(2) ラウンドテーブル

往復はがきに次の事項をご記入の上、お願いいたします。

- ・発表区分 ラウンドテーブル
- ・テーマ（企画）名
- ・企画代表者氏名（話題提供者全員の氏名は、発表要旨提出までに確定させてください。）
- ・代表者の所属（職名）、電話番号、メールアドレス

- ・代表者の住所，電話番号，緊急時連絡先（携帯）
*返信はがきに，自分宛の郵便番号，住所，氏名を必ず記入して下さい。

2 自由研究発表およびラウンドテーブル企画申込先（福岡大会事務局）

〒811-4192 宗像市赤間文教町1番1号
福岡教育大学国語教育講座 河野智文研究室宛

3 受付期間

発表会場の都合で，全員の発表申込を受けられないことがあります。その際は，原則として，発表申込葉書の消印を基準に，発表者を決定させていただきます。そのため，発表申込の受付期間を，

8月1日～8月20日（消印有効）

といたします。7月以前には投函なさないよう，お願いいたします。

なお，8月21日以降の受付はできません。

また，発表日のご指定もご遠慮ください。

4 発表要旨集原稿の締め切り

（1）自由研究発表

要旨集の原稿は学会ホームページ内にあるテンプレートを利用し，A4用紙4ページにまとめて，下記の期日までに上記大会事務局宛送付して下さい。行き違い等を防ぐため，メール添付ではなく紙媒体での送付をお願いします。仕上がりは白黒になります。

（2）ラウンドテーブル

自由研究発表要旨の様式にしたがい，企画名・参加者氏名・所属と企画の意図を1ページにおまとめください。

*要旨集原稿締め切り期日：9月22日（月）必着。なお，期日後のものは白紙となります。

*送付先：自由研究発表・ラウンドテーブル企画申込先と同じ（上記福岡大会事務局宛）。

5 大会全般についての問い合わせ先（福岡大会事務局）

山元悦子研究室

TEL & FAX：0940(35)1284

メール：tnetsuko@fukuoka-edu.ac.jp

河野智文研究室

TEL & FAX：0940(35)1281

メール：kawanot@fukuoka-edu.ac.jp

※学会当日は他の催しと重なり，宿泊施設が混み合うことが予想されます。JTB幹旋ホテルの積極的利用をおすすめします。

◆『国語科教育』第65集 投稿募集について

第65集 編集委員長 鶴田清司

下記の要領により、『国語科教育』第65集の原稿を募集いたします。
学会ホームページにも募集要領は記載されております。

1. 投稿論文は、平成20年8月1日（金）から8月31日（日）（消印有効）までの期間に受け付けます。
 2. 原稿の送付先は下記の通りです。
〒739-8524 東広島市鏡山一丁目1番1号
広島大学大学院教育学研究科国語文化教育学講座内
全国大学国語教育学会事務局
 3. 封書にはかならず「投稿原稿在中」と朱書き書留で郵送してください。
 4. 原稿は、4部（コピー可）送付してください。
(1) そのうちの1部には、題名のあとに氏名を記し、論文の最末尾に（ ）をつけて所属を、行をかえて原稿発送年月日を、それぞれ1行ずつ取って記してください。
また、その論文の前に、氏名・所属・連絡先を明記した用紙を添付してください。
(2) あとの3部については、氏名・所属等、書き手を特定できる情報は書かないでください。
 5. 原稿は、原則としてワープロまたはパソコンで打ち出し、フロッピーを添えて送ってください。その際、フロッピーに機種名・ソフト名を書き添えてください。(例：「一太郎2007」)
 6. 原稿は未発表のものに限ります。ただし、口頭発表やプリント類の場合は、この限りではありません。
 7. 募集の枠を「研究論文」「実践論文」「資料」の三つとしますので、どの枠に応募したものであるかがわかるように、そのことを題名の前に明記しておいてください。
ただし、投稿論文の採択の枠付けについては、編集委員会におまかせください。
 8. 図表などの類は、本文の中に含めて計算し、本文内に該当箇所を明示してください。なお、縮小する場合は、読者が判読できないなどということがないように、8割以上の縮小率で取ってください。また、「注」は本文と同じ書式でそろえてください。
- 付記
- (1) 引用文献、参考文献は、原稿末尾に「注」で明記してください。
 - (2) 原稿の返却はいたしません。控えをとっておいてください。
 - (3) 原稿の郵送は、書留でお願いします。
 - (4) 連続掲載は、原則として2回までとなっています。

◆事務局からのお知らせ

■平成20年度のおおよその学会活動予定

- 6月末 学会通信平成20年度第1号発行（今号） 会費納入
- 8月末 学会通信平成20年度第2号発行
- 9月末 『国語科教育』第64集発行
- 11月22日・23日 第115回福岡大会（編集委員会21日，常任理事会21日，
理事会22日）
- 12月 『国語科教育実践・研究必携』発行
- 1月末 学会通信平成20年度第3号発行
- 3月末 『国語科教育』第65集発行

■学会ホームページをご覧ください

事務局の移転にともない，ホームページのリニューアルを行いました。

サイトマップの設置によって，ホームページの全体構造が把握しやすくなり，必要な情報にアクセスすることも容易になりました。

今後も，メールフォームの設置を行うなど，よりひらかれたホームページになるよう努めて参ります。改善のためのご意見・ご要望をどうぞお寄せください。

◆学会費納入のお願い

別紙に各位の会費納入状況をお知らせしています。会費の納入をお願いいたします。

参考までに，会費納入に関する学会規約を下に載せました。学会費未納3年以上の会員の方は，会員資格を失うという措置をとらせていただいております。学会誌の発送は，未納の場合，翌年より停止いたします。会の運営は会費によって支えられています。ご協力をお願いいたします。
※事務局移転にともない，郵便振替口座の口座番号が変更されています。新しい口座宛てお間違えないようお振り込みください。

□規約第9条

第9条 会費は年額7,000円とし，毎年5月末日までに納付するものとする。国外在住の会員は，所定の会費のほかに通信費2,000円を納付するものとする。なお3年間未納の者は会員の資格を失うものとする。

顧問または名誉会員からは会費を受けないものとする。

<新口座番号>

郵便振替口座番号 01370-4-70223
加入者名 全国大学国語教育学会

◆新入会員のお知らせ

茨城大会の常任理事会で承認された新入会員の方々をご紹介します。

以上

〈新入会員〉

No.	氏名	所属機関名	職名	研究領域・研究課題
1	馬場サユリ	佐賀大学大学院	大学院生	読書生活を構築していく力を育てる読書指導に関する考察
2	米倉一成	佐賀大学代用附属佐賀市立本庄小学校	教諭	書写指導と各活動の関連・豊かに読み取る。確かに読み取る。
3	大場正太	横浜国立大学大学院	大学院生	諸外国における優れた読解教育理論, 実践
4	川原賀代子	明治学園高校	教諭	中世の語りものの文体について, 中高6ヶ年における国語教育について
5	大原千栄子	山梨大学大学院	大学院生	音声言語教育
6	荻野 聡	東京学芸大学大学院	大学院生	作文教育に関する指導法研究
7	佐々木謙士	東京学芸大学大学院	大学院生	国語教科書研究
8	古矢博樹	東京学芸大学大学院	大学院生	作文教育に関する指導法研究における教授法研究
9	森颯子	東京学芸大学附属竹早中学校・東京学芸大学大学院	大学院生	単元学習
10	花山聡	成蹊中学高等学校	教諭	中学校高等学校での国語教育実践のための教材研究と指導研究
11	矢澤 聡	広島大学附属三原中学校	教諭	話し合う力を育てる授業実践にかかわる研究
12	金巻秀樹	早稲田大学大学院	大学院生	高校生を登場人物とする小説を用いた表現意欲の喚起についての研究
13	櫻井礼子	早稲田大学大学院	大学院生	国語科総合単元学習についての研究
14	田中慎一郎	早稲田大学大学院	大学院生	高等学校における表現指導の研究
15	本橋明子	早稲田大学大学院	大学院生	他国との比較を通じた文学教育研究
16	竹内絢乃	福井大学大学院	大学院生	戦争平和文学教材研究
17	野尻麻香	福井大学大学院	大学院生	文学教材の指導について
18	常原 拓	神戸市立有野小学校	教諭	文学・説明文の教材研究論・国語科授業評価研究論
19	原田大樹	広島大学大学院	大学院生	標準語指導の史的研究
20	砂川誠司	広島大学大学院	大学院生	メディア・リテラシー教育
21	長岡由記	広島大学大学院	大学院生	小学校入門期における文字の音声化指導について
22	山本亮介	信州大学教育学部	准教授	日本近現代文学